

幼児の周囲に漢字カードを

幼児は、飛び交う言葉の中で生活しているうちに、ひとりでの言葉を習得しているのですから、漢字の学習も、幼児の目に触れる所に漢字を満たしておくのが最も効率的である、ということが出来ます。

机には“机”、壁には“壁”、花瓶には“花瓶”という漢字を書いた紙片を貼っておけば、必ず幼児は、これに関心を示します。その時、これを読んで聞かせれば、すぐに覚えてしまいます。

一歳半で三百字の漢字を覚え、たという、田中庸介君も、家の中の漢字を読んでやったところから始まったと言います。“電灯”などは、電灯から短冊を下げて、それに書いておけば、幼児は興味をもってこれを見るでしょう。

漢字カードは墨と筆で書くのが普通ですが、色のマジックペンで書くのもよいと思います。赤や紫や青や緑、いろいろ美しい色で漢字カードを作ると、幼児の興味を一層惹くに違いありません。

あらゆる品物や場所に漢字カードを貼りつけたとしても、家の中では限りがあります。また犬や猫や小鳥を飼っていたとしても、これらの生き

物に漢字カードを貼り付けるわけにはいきません。

これらのものは、絵本の絵を利用するのです。犬の絵のそばには“犬”、猫の絵のそばには“猫”と書き入れるのです。こうすれば“山、川、木、森、自動車、電車、空、雲、星、月、お爺さん、お婆さん……”ほとんど何でも教えることが出来ます。

現在出版されている幼児用絵本というと、ほとんどかな書きです。このかなの上にそれが隠れるように紙を貼り、漢字を書き入れるのがよろしい。かなは初めのうちは幼児の目に触れないようにすることが必要です。少なくとも、漢字を百字くらい覚えさせないうちは、かなを教えるはいけないからです。